

以来、生産工学部では、当初は学生プロジェクトとして、後に男女共同参画委員会活動として、毎年オープンキャンパスで、女子高校生向けの企画を実施している。

特に好評なのは、女子学生による相談コーナーである。工学系への進学や学科の選択を迷っている女子高校生とその保護者が、生活や勉強のことなどを、女子学生本人から直接聞けるところが良いようだ。この活動は学部の方針や広報委員会などの協力も得てさらに広がり、今年は別日に女子中高生対象のキャンパスカーフェを開催して、これも評判がよかつた。入学者の女子比率も3年前に比べて、約1.5倍(15.6%)に増加した。

■ □ 自分自身については、生物学科では3割が女子学生だったが、大学院に進むと、専攻12研究室で女子大学院生は私一人という時期もあった。大学院時代に学生結婚をして、大学院生で長女、ボスドク時代に長男を産んだ。子育てでは研究者(現在は製薬企業役員)の夫と一緒に、保育園の助けを借りて行った。一家で英国留学し、海外では女性研究者が子育てしながら、いきいきと活躍する様子を見ってきた。

日本的研究者女性比率は約14%と先進国中最低である。また、技術者の女性比率は1%程度だそうである。まずは裾野である理工系女子学生を増やすし、しっかりキャリア教育をし社会に送り出し、大学教員や企業研究者・技術者など、プロフェッショナルでリーダーとなる女性を育てたい。

さらに、自分の所属する大学や学部ばかりではなく、女性研究者活躍促進のための社会の仕組み作りにも貢献したいと考えている。女子中高生の学校2012(国立女性教育会館)実行委員長を務めたのもその一環である。今秋には、中国・韓国の女性科学技術リーダーを招いた国際会議開催も予定している。

女子学生を増やそう

日本の研究者女性比率は約14%と先進国中最低である。また、技術者の女性比率は1%程度だそうである。まずは裾野である理工系女子学生を増やすし、しっかりキャリア教育をし社会に送り出し、大学教員や企業研究者・技術者などが多い。企業と大学が連携して女子学生を育て、また企業の女性研究者。

大学の研究者とは視点が異なり、勉強になることが多い。企業と大学が連携して女子学生を育て、また企業の女性研究者・技術者が大学を活用して学び、研究できるよう、ネットワークを作りたいと意気込んでいる。

日本大學生産工學部
應用分子化學科教授
野呂 知加子



最近は、工学系学部にいるためもあり、企業の女性研究者・技術者と交流する機会が増えたが、まだ女性が少ない。

△ □ プロフィル／79年千葉大学理学部生物学卒、84年京都大学大学院理学研究科(生物物理学専攻)修了(理学博士)。科学技術振興機構(JST)プロジェクト、さきがけ研究、理化学研究所研究員などを経て05年より現職。医学部兼担。細胞接着分子と幹細胞再生の研究が専門。日本女性技術者フォーラム会員。

女子高生のための
オープンキャンパス
ポスター

はたらくこと いきること

理工系女性の想い

部を担当するようになり、工学系学部では女子学生や女性教員が少ないことに驚いた。女性も理系を選択し、社会で活躍してほしいと考え、當時の学部長に「工学系女子学生をふやそう」キャンペーンの実施を提案した。ちょうどこの年から日本大学は、文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業に採択され、私はその実施に関わっていたのである。

